

猪の瀬戸の自然史 I

猪の瀬戸の概観

猪の瀬戸は、北西方を由布岳、北東方を鶴見岳、南方を水口山のそれぞれの第四紀火山によって囲まれた700m前後の海拔高度に位置する小さな盆地で、湿原を形成しています。由布岳の地質は、古期の主火山体噴火物（3万5千年前以前に形成）と新期（2000～1500年前の形成）の山頂溶岩及び山体周辺

の溶岩円頂丘（日向岳など）の2つのユニットに分けられます。鶴見岳も由布岳と同じく山頂溶岩及び山体周辺の溶岩円頂丘（南平台など）から成り立っています。そして、猪の瀬戸は、山麓部の扇状地堆積物、中心部の湿原堆積物を主とする沖積層により形成されています。

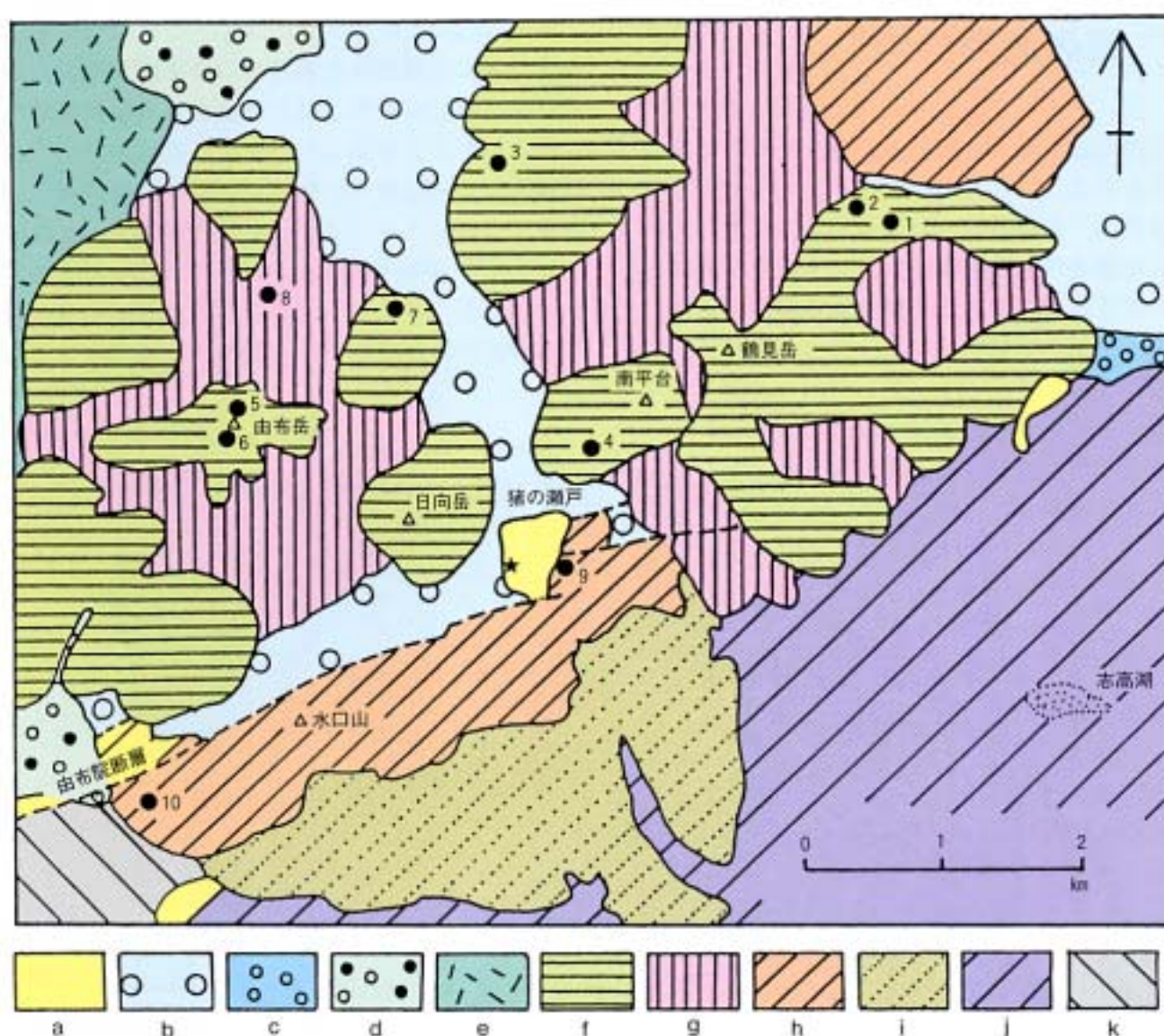


鞍ヶ戸尾根からの猪の瀬戸

猪の瀬戸の水系



猪の瀬戸湿原の水系



a: 沖積層, b: 扇状地堆積物, c: 段丘堆積物, d: 岩層なだれ堆積物, e: 池代火砕流, f: 由布岳・鶴見岳山頂溶岩及び側火山, g: 由布岳・鶴見岳主火山体噴出物, h: 高平山・水口山火山群, i: 城島火砕流, j: 小鹿山・用乞岳火山群, k: 倉木山安山岩。

猪の瀬戸周辺の地質図

(星住ほか, 1988を参照して作成), 分析溶岩石採取地点(黒丸印の1~10), 掘削地点(星印)

猪の瀬戸の水系は、東部、中部、西部の3つに分けられます。

東部は、鶴見岳とその側火山の南平台溶岩円頂丘を侵食する谷の水系です。流れは、南平台の山麓部に広がる扇状地の地下を伏流しています。

中部の水系は、由布岳と鶴見岳の鞍部から流れる水系で、猪の瀬戸の本流です。流れは網状流をなし、いくつかの流路がみられます。本流沿いには、氾濫による自然堤防状の高まりが形成されていて、周囲より数10cm高くなっています。

由布岳・日向岳から南に流れ湿原をうるおす水系

と南の水口山の北麓部を東に流れる水系が合流して西部の水系が作られています。前者の一部は、湿原の西方に火山麓扇状地を作っています。その扇端部は杉林になっていて、そこからいくつかの湧水が出ています。杉林と湿原の境界部を南に流れる水系は、これらの湧水や湿原内の水系を合流させます。後者は、水口山北麓部に形成された崖錐により、北に向かって押しやられた流れをみせる部分があります。しかし、水口山から北に流れる水系は、この急斜面が断層崖であるために貧弱です。